

京都府「北山エリア整備基本計画」の知事答弁に対する声明文

2024年4月24日

北山エリアの将来を考える会

3月14日に開かれた京都府議会2月定例議会の2024年度予算特別委員会知事総括質疑で西脇知事が国際大会を誘致できる規模の屋内スポーツ施設について、向日町競輪場に整備したいと表明しました。すでに、京都府立植物園にかかわる整備計画そのものの「見直し」は昨年2月に決まっており、府立大学構内への1万人アリーナ建設が今回断念されたことから、府立植物園は基本的に守られることになりました。京都府民・全国の多くの方々のこれまでのご支援に深く感謝いたします。

この問題の発端は、2019年のスポーツ庁「スタジアム・アリーナ改革」に位置付けられた府立大学内の「アリーナの要素を持った体育施設の整備可能性調査」から始まりまし。ついで2019年10月の府総合計画に「北山『文化と憩い』の交流構想」が盛り込まれ、植物園・北山エリアの「開発計画」が姿を現しました。2020年10月にはこの計画について府民へのパブリック・コメントの募集が行なわれ、わずか55名142件のコメントで賛同を得たとして、府は同年12月に「北山エリア整備基本計画」を公表しました。

北山エリア整備基本計画のキーワードは「躍動する祝祭空間」です。植物園や府立大学などの境界をなくし、人々が自由に行き来できる、賑わいと回遊空間を作り、中核施設である府立植物園を都市公園化し、周辺部に商業施設やレストラン・ホテルなどを設け、さらに隣接する学生2000人余の府立大学キャンパス内に1万人規模の巨大商業アリーナを建設するという大規模な「開発計画」でした。

この無謀な計画が明らかになるなかで、まず全国の植物の専門家などによる「京都府立植物園を守る会」が発足し、計画の見直しを求める全国署名に取り組みられました。ついで、植物園関係者や京都府職員労働組合連合、地元住民などが協力し合って「北山エリアの将来を考える会」が結成されました。その後、左京区や北区の地域住民が中心となって「京都府立植物園整備計画の見直しを求める会（通称なからぎの森の会）」や「植物園の環境と景観を守る北区の会」を立ち上げ、さらに府立大学の学生や卒業生、OB教員を含む教員の有志によって「北山エリアを考える府大関係者の会」が結成されました。これらの5つの団体・組織が力を合わせて府立植物園・北山エリアを守るために様々な活動を展開してきました。

3年にわたり、私たちは、協力して開発計画の問題点を指摘し、危惧される問題を可視化すべく、署名を広げ、ニュースを発行し、幾度にもわたる集会を開催し、パレードや京

都府・京都市への要請行動、新聞やテレビ・ラジオなどのマスメディアへの記者会見、学会での報告など多様な活動に取り組んできました。その結果、全国から16万3千筆を超える署名が寄せられ、府立大学学生のアンケートでも400名を超える声を集めるに至ったことは、府に計画の見直しを迫る大きな力となりました。

こうした府民の声に押されて、京都府は①府立植物園の整備のあり方を見直したことに加え、②昨年12月には、旧総合資料館跡地も今後8年間は解体・暫定利用することを決定しており、さらに今回3月に③植物園に隣接する府立大学構内に建設を目指していた1万人アリーナについても断念しました。これらのことにより、2020年に策定された「北山エリア整備基本計画」に基づく計画は当初の計画の体をまったくなさないほど大幅な変更となっています。京都府はこの計画に固執することなく、将来に禍根を残さないために、北山エリア整備基本計画そのものを撤回されることを要望します。

京都府は、今年100周年を迎えた歴史ある府立植物園は次の100年を見越した発展に向けた整備に取り組んでください。また、府立大学の耐震基準を満たさない危険な老朽学舎・体育館を最優先で建て替え、未来を担う学生が安全で安心して学ぶことのできる環境を整えてください。そして、旧総合資料館跡地の活用や向日町競輪場での屋内体育施設整備（アリーナ）についても、地域住民や府民の意見を丁寧に汲み上げ合意形成を図りながら検討されることを強く求めます。

以上